平成３０年１１月１６日
（２０１８年）

保　護　者　の　皆　様

吹田市立山田中学校
校長　　溝口　　千鶴

平成３０年度　全国学力・学習状況調査の結果について

本年度、３年生を対象として「平成３０年度全国学力・学習状況調査」を実施し、１０月中旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、今年度は、国語、数学に加え、理科の３教科で実施されました。調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった３年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善を図ってまいります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の参考にしていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果の分析

【　国　語　】

《概要》

Ａ・Ｂ問題とも平均正答率は大阪府及び全国値を上回っている。特に「読むこと」に関しては、全国平均を大きく上回っている。

◎国語Ａ（「知識」に関する問題）

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化」の全領域において全国値を上回っている。

◎国語Ｂ（「知識の活用」に関する問題）

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域において全国値を上回っている。「伝統的な言語文化」の領域は全国値とほぼ同じであった。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

話すこと・聞くこと

・「話し合いの話題や方向をとらえる」ことは、全国値を上回っている。

書くこと

・「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」ことは、全国値を上回っている。

読むこと

・「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」及び「段落が文章全体の中で果たす役割をとらえ、内容の理解に役立てる」ことは、全国値を上回っている。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

・「文脈に即して漢字を正しく書く」ことは、全国値を大きく上回っている。
・「行書の基礎的な書き方を理解する」ことは、全国値を上回っている。
・「歴史的仮名遣いに直して読む」ことは、全国値を大きく上回っている。
・「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」ことについては、やや課題がある。

《国語科における成果と今後の改善点について》

今回の調査結果から、生徒の日常の学習成果と努力を確認することができる。特に、「言語に関する知識」や「読む」ことに関して、グループワークを取り入れた授業や発表等の学習の成果が現れている。「生活習慣や学習環境等に関する調査」結果において「主体的・対話的な学び」を取り入れた授業が多いと生徒がとらえていることから、国語科だけではなく、全ての教科で今後もグループワーク等を取り入れた話し合い活動や自分の考えを伝え方を工夫しながら発表できる取り組みを継続して進めていく必要がある。

【 数 学 】

《概要》

A･B問題とも平均正答率はどの領域も全国値を上回っている。特に、「関数」に関しては、全国値を大きく上回っている。

◎数学A(『知識』に関する問題)

「数と式」「図形」「関数」の領域において全国値を大きく上回っている。

◎数学B(『活用』に関する問題)

「図形」「資料の活用」の領域において全国値を大きく上回っている。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と式

・「絶対値の意味を理解している」ことは、全国値を大きく上回っている。
・「具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形することができる」ことは、全国値を大きく上回っている。
・「事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明することができる」ことは、全国値を大きく上回っている。

図形

・「空間における平面と直線との位置関係を理解している」ことは、全国値を大きく上回っている。
・「付加された条件の下で、新たな事柄を見いだし、説明することができる」ことは、全国値を大きく上回っている。
・「証明の必要性と意味を理解している」ことについては、やや課題がある。

関数

・「事象を理想化･単純化することで表された直線のグラフを事象に即して解釈することができる」ことは、全国値を大きく上回っている。
・「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」ことについては、やや課題がある。
・「一次関数の意味を理解している」「一次関数$y=ax+b$について、xの増加に伴うyの増加量を求めることができる」も全国値を大きく上回っている。

資料の活用

・「表などを利用して、確率を求めることができる」ことについては、全国値を大きく上回っている。
・「与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えることができる」ことについては、全国値を大きく上回っている。

《数学科における成果と今後の改善点について》

今回の調査結果から、習熟度別指導を含む、少人数指導等の成果がみられ、特に「計算力」に関しては、学習の成果が現れている。しかし、「資料の活用」について、やや課題がある。「与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる」ことについては、多くの生徒がつまずきやすい部分ではあり、全国平均と同様に無回答率も高い。今後も少人数指導の特性をいかしつつ授業の中で、事象を目的に応じて数値化して判断する場面を設定する等の機会を増やす必要がある。

【 理 科 】

《概要》

平均正答率はどの領域も全国値を大きく上回っている。記述問題の正答率についても全国平均を大きく上回っている。全体的に無回答率が低いが、計算力や記述では無回答率がやや高いのが課題である。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

物理 ：「オームの法則を使って抵抗の値を求めることができる」ことは、全国値を大きく上回っている。

化学 ：探求の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見出し、探求を深める力にやや課題がある。

生物 ：「無脊椎動物」、「刺激と反応」についての知識・理解に関しては全国平均を上回っている。
また、「神経系の働きについての知識」にやや課題がある。

地学 ：緊急地震速報など、地震を科学的に探求する力について、全国平均を上回っている。

《理科における成果と今後の改善点について》

知識や考える力は高いが、ことばで表現する力に課題がある。
知識を問う質問 h については正答率が高いが、思考力を問う内容については正答率がやや低い。実験を多く取り入れた授業を行っていることから、観察・実験の技能が高い結果が表れている。今後もいろいろなことに興味を持ち、常識にとらわれない発想力の育成が求められる。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【自己肯定感・自己有用感】

・「自分にはよいところがあると思いますか」については、全国値を上回っている。
・「将来の夢や目標を持っていますか」については、全国値を上回っている。
・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」については、全国値とほぼ同じ。

山中生の輝き1

将来の夢や目標があり、自分の良さに気づいている子ども

学校での様々な取り組みや家庭生活を通して、生徒が自分たちのよさ（個性）に気づくことができています。また、将来の夢や目標を持ち、それに向かって努力する姿が見られます。

今後、「自分自身に何ができるか」を考え、人のために力を発揮しようとする力を高めるために道徳・特別活動・総合的な学習の時間をはじめ、学校生活すべての場面で「自己有用感」を高める取り組みを進めていきます。特に「キャリア教育」では、幼小中一貫したカリキュラムのもと継続した取り組みの充実に努めていきます。

【学習面】

・「家で学校の宿題をする」については、全国値とほぼ同じ。
・「家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習する」については、全国値を上回っている。
・「学校の授業時間以外の1日当たりの勉強時間」や「放課後、週末に学習塾など学校や家以外の場所で勉強している」については、全国値を上回っている。
・「家で自分で計画を立てて勉強する」については、全国値をやや下回っている。

山中生の輝き2

学習習慣が身についた子ども

学校の宿題（提出物）は、おおむね期限を守り、やり遂げることができている。また、宿題以外の家庭学習についても定着しており、学習に対して意欲的なところがうかがえる。

しかし、計画的に学習するなど主体的に学習することに改善の余地があります。

今後、学校の授業でも、学習意欲をより一層高める生徒主体の授業を目指し、ペアワークやグループワークで学び合う活動の充実に努めていきます。

【新聞・時事・読書】

・「新聞を読んでいる」については、全国値をやや上回っている。

・「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る」については、全国値を上回っている。

・「学校の授業時間以外の、普段の1日当たりの読書時間」については、全国値とほぼ同じ。

山中生の輝き3

社会の動きに関心の高い子ども

社会の出来事に興味・関心を持っており、新聞・テレビ・インターネット等必要に応じて情報を得る方法を身につけているといえます。ただ読書については「全くしない」と回答した生徒の割合が全国値よりも大きく上回りました。本校に限らず、中学生の読書離れが課題となっています。小学校から継続した読書活動を推進するとともに、昨年から取り組み始めた「ビブリオバトル（書評合戦）」の継続的な取り組みをとおして本を読む動機づけを行っていきます。

【学校生活】

・「学校の部活動に参加している」については、全国値を上回っている。

・「家の人と学校での出来事について話をする」については、全国値をやや上回っている。

生徒は部活動に積極的に取り組んでいます。

一般的に、中学生の時期は自分のことや学校での出来事を家の人に話さなくなる時期ですが、本校では、約8割の生徒が肯定的な回答をしています。中学生にとっては、話を聞いてもらえる環境があることで、気持ちの整理をしたり、意欲がわいたりします。また、いじめの早期発見につながることもあります。学校の中でも今以上に生徒が教職員を信頼し、相談できる関係づくりを目指していきます。

【地域】

・「今住んでいる地域の行事に参加している「」については、全国値を下回っている。

・「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」については、全国値を下回っている。

・「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある」は、全国値とほぼ同じ。

生徒のよりよい成長のためには、学校・家庭・地域の連携が不可欠であると考えています。本校では、昨年度から防災教育に取り組んでおり、今年度も6月に地域の方に参加していただき、地震直後の行動について考えました。中学生が地域の一員として活躍するためには、日ごろから地域行事に参加したり、地域との関わりを持っておく必要があります。今後も、学校全体として地域と連携していきます。